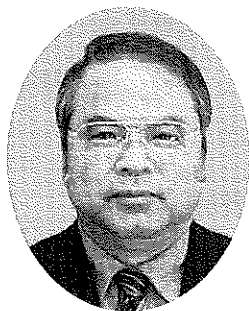


日本カウンセリング学会

第13号

# 認定カウンセラー会 ニュースレター

日本カウンセリング学会 認定カウンセラー会  
〒112-0012 東京都文京区大塚3-5-2 佑和(ゆうわ)ビル2F  
TEL&FAX 03-6304-1233



## 認定カウンセラーのさらなる 専門性の向上をいかに

教育・スーパージョン部会長 上地 安昭

認定カウンセラーの専門性をいかに高めるか。認定カウンセラーはクライアントから信頼され、クライアントの期待に応える専門家としての資質と力量を十分備えているのか。残念ながら現時点では、即「Yes!」と明言するわけにはいかない。そこで、あらためて認定カウンセラーの専門性のさらなる向上を図るための若干の課題についての提言を試みたい。

1. 認定カウンセラーを養成する大学院レベルの教育訓練プログラムが、わが国では十分整備されていないのが現状である。臨床心理士の養成に関しては、ご存知の通り全国的に大学院修士課程における教育訓練プログラムが整備され、順調に機能している。臨床心理士に比べ認定カウンセラーの専門性に対する社会的評価が低いのは、大学院レベルの教育訓練プログラムの不備がその一因であることは否めない。現状のこの両者の格差について、とくに日本カウンセリング学会の役職者（常任理事や理事）は各自が真剣に問い、早急にこの問題の解決を図ることが望まれる。
2. 専門家としての認定カウンセラーのアイデンティティの確立を図り、カウンセラーの役割を各自が明確に意識し実践することが望まれる。つまり、「カウンセリングとはなにか」「カウンセラーの専門性はなにか」等、絶えず自らが問い行動する必要がある。同時に、認定カウンセラーは、「心理療法よりもカウンセリング」を、また、「臨床心理学よりカウンセリング心理学」を重視し、臨床心理士とは若干異なる専門的立場から、専門家としての資質と力量を高めることが期待される。なお参考意見として、米国ではカウンセリング心理学者（Ed.D.）と臨床心理学者（Ph.D.）を養成するための大学院博士課程レベルの教育訓練プログラムの内容に違いがあることから、その結果として専門家としての両者のアイデンティティが若干異なることを述べておきたい。
3. 現状の認定カウンセラーの資格取得は、あくまでもカウンセラーとしての基礎資格であり、専門家

としてのカウンセラーへの第一歩を踏み出したとの各人の自覚が望まれる。それ故に、資格取得後から本格的なカウンセリングの専門家としての実地学習が始まるとの認識が必要である。カウンセリング（心理学）は奥の深い専門領域である。筆者は、40数年間カウンセリングに携わってきて、やっとこの頃「カウンセリングとはなにか」等が、自分なりに理解できてきた感じがする。認定カウンセラーの資格取得をスタートに、あらゆる機会を利用してカウンセリング学習を継続することが真の専門家を目指すカウンセラーの課題ではないかと考える。そのための認定カウンセラーの継続研修を促進するための専門的教育研修プログラムの開発と同時に、継続研修の機会を大幅に増やし提供することが望まれる。そこで、現行の認定カウンセラー会「相互研究（研修）会」についても、そのための継続研修プログラムの一環として、今後のさらなる充実と強化が大いに期待される。

(参考文献：ジェラルド・アマダ著（上地安昭監訳）「心理療法ガイドブック」誠信書房 2012)

## 総会の報告

- ・ 2012. 7. 8 (日) 13:00~14:00 早稲田大学22号館201教室
- ・ 司会：河村茂雄 議長：水野修次郎
- ・ 認定カウンセラー会会長挨拶 田上不二夫  
日本カウンセリング学会理事長挨拶 山口 正二
- ・ 報告事項 ①現在会員数 902名 (2012. 4. 1 現在)
- ・ 審議事項 ①2011年度事業報告〈理事会5回、相互研究会5回、公開セミナー、学会大会企画ミーティング、東日本大震災支援活動（北茨城10回、石巻市16回、支部活動等13回）、危機支援部会特別研修会（継続研修会、死別の悲しみをわかちあう会5回）、東日本大震災対策本部主催「被災者支援研修会」への協力3回、キャリアカウンセリング部会ワークショップ、会報発行3回、その他〉 ②2011年度決算報告（案）、会計監査 ③2012年度事業計画（案）〈理事会5回、相互研究会5回：会場はいつでも早稲田大学、公開研修会：地方開催を望む、公開セミナー、学会大会企画シンポジウム、東日本大震災支援継続、死別体験者のためのわかちあいの会：学会員対象5回・一般対象2回、危機支援継続研修会、認定カウンセラーのための特別セミナー、会報2回、その他〉 ④2012年度収支予算（案） ⑤会則改定（案）第2章第3条（目的）の中の「、または准認定カウンセラー」の部分と、第3章第5条の中の「、または准認定カウンセラー」の部分削除する。第4章第14条2、専門部会（2）医療・福祉カウンセリング部会を、医療・看護・福祉カウンセリング部会とする。⇒これらは審議の後、いずれも可決された。

# 理事会報告

## ◇第1回 2012年5月20日（日）

- 〈報告〉 1 会員移動（会員数903名） 2 各部会よりの報告 3 東日本大震災支援について 4 その他（2012年度相互研究会の日程と会場、会報の特集号について、他）  
5 昨年度第5回相互研究会の会計報告とアンケート回覧
- 〈審議〉 1 総会時の役割分担につて 2 部会活動について（各部会の相互研究会年間活動を確認した）  
3 委員会活動について（各委員会のメンバーと年間活動計画を確認した） ※来年度が役員改選で新しい体制になるため、この1年の間に部会の分け方や委員会のあり方について検討していくことを確認した 4 総会資料の検討（事業計画・収支決算と予算・その他） 5 役員選挙について（選挙管理委員会の発足） 6 その他（学会の「のほり」を作製予定）

## ◇第2回 2012年7月8日（日）

- 〈報告〉 1 会員移動（会員数902名） 2 総会の運営について 3 「のほり」完成（のほり旗10組、旗のみ10枚） 4 各部会よりの報告 5 東日本大震災支援について（義捐金のお願い、北茨城市・石巻市の活動報告） 6 第1回相互研究会の会計報告とアンケート回覧 7 各部会の運営委員には一般の会員にも加わってもらうように働きかけを、と会長の話があった 8 ガイダンスカウンセラー資格認定試験が始まるとの報告があった
- 〈審議〉 1 選挙管理委員会について（会長・副会長・総務委員で構成する。副会長の選出については今後、規約等を確認し決定する。役員の年齢制限を見直したらどうかの意見が出た） 2 名簿作成について（記載事項について論議した） 3 その他（相互研究会の部会のもち方についてアンケートをとる、認定カウンセラーの拠点を関西に設けるなどが会長から提案され、今後検討することになった）

## ◇第3回 2012年9月9日（日）

- 〈報告〉 1 会員移動（会員数896名） 2 各部会よりの報告（石巻・気仙沼支援、他）  
3 東日本大震災支援について（P 5 参照） 4 第2回相互研究会の会計報告とアンケート回覧  
5 相互研究会のあり方についてのアンケート実施にむけて、研修委員会で原案を作成し第4回相互研究会で実施する 6 「心理師（仮称）」の国家資格制度の動向について 認定カウンセラーとガイダンスカウンセラーの統一について 7 その他 被災者支援の活動報告書は従来通り代表者がまとめて提出、活動費については活動に要した物品や印刷代等の領収書に基づいて支出したいと会長から指示があった（従来は一律1日5,000円であった）
- 〈審議〉 1 会費3年間未納者の退会について、6名の退会を承認 2 公開セミナー、公開研修会について（P 4 参照）

## 今後（10月以降）の研修会等の予定 （5月の年間予定より）

A. 相互研究（研修）会 会場は、いずれも早稲田大学

◇第4回 2012年11月11日（日）

- ・学校カウンセリング部会「キャリア教育の実践と課題」
- ・危機支援部会「重症心身障害児者の医療を通して」
- ・コミュニティ&倫理教育部会「カウンセリングプログラムの作成」
- ・キャリアカウンセリング部会「大学におけるキャリア教育」
- ・教育・スーパービジョン部会「自らの教育分析（カウンセリング）体験とその意義を語る」
- ・医療・看護・福祉カウンセリング部会は未定

◇第5回 2013年2月3日（日）

- ・学校カウンセリング部会「学級集団づくりに活かせるグループ・アプローチの実践（集団の状態に合わせたグループ・アプローチの展開方法）」講師：河村茂雄
- ・危機支援部会「性犯罪を中心に」講師：小林美佳・稲吉久乃（中野保健所）
- ・コミュニティ&倫理教育部会「開業カウンセラーに必要な能力」
- ・キャリアカウンセリング部会「社会人のキャリア教育」
- ・教育・スーパービジョン部会、医療看護福祉部会は未定

B. 公開研修会 2013年2月、関西地区での開催を目指して努力する

C. 公開セミナー 会場は早稲田大学。開催時期・テーマ等については近日中に詰める。

D. 学会大会時における認定カウンセラー会企画シンポジウム

2012年10月28日（日）会場：麗澤大学

テーマ「喪失と悲嘆のケア～認定カウンセラーの可能性と限界～」

E. 死別体験者のためのわかちあいの会（学会員対象）会場：東京福祉大学

第3回 10月6日（土）第4回 12月8日（土）第5回 2月2日（土）

F. 死別体験者のためのわかちあいの会（一般対象）「オーロラの会」会場：東京福祉大学

第2回 11月9日（金）

G. キャリアカウンセリング部会宿泊研修会（ワークショップ）

2013年3月下旬に開催の予定で企画中

## 東日本大震災被災者支援、取組みの経緯・報告(3)

2012年4月～9月末

### ◇危機支援部会の取組み

- A. 北茨城市における「かもめの会」(グリーンケア)の活動 (月1回程度、土曜日)
- ・ 4月21日、5月26日、6月23日、7月21日、8月25日、9月29日、10月20日、11月17日、12月22日、1月26日
  - ・ 主に危機支援部会Aグループが継続支援している。
- B. 石巻市河北地区仮設住宅における支援活動
- ・ 第2次計画に基づき、大森第3団地・多目的団地・河川団地で継続活動中。  
4月13、19、20日。5月以降、第2木曜・金曜に行政と協働活動開始。5月10、11、12日。6月7、8、9日。7月12、13、14日。7月26日(特別活動)。8月9日(仮設支援活動20名参加)、10日(被災地視察18名参加)、11日。9月13、14、15日。
  - ・ 雄勝包括支援センターより、飯野川校団地での支援活動を勧められ9月28日より開始。
  - ・ 主に危機支援部会Bグループと危機支援チームが継続支援している。

### ◇栃木県支部の取組み

- ・ 4月14、15日 石巻市渡波・鹿妻地区にて二次調査(戸別訪問し傾聴・カウンセリング実施。石巻医療健康生活復興協議会を拠点として)

### ◇北東北支部の取組み

- ・ 5月26日 第3回被災地援助研修会(宮古市新里生涯学習センター)

### ◆支援活動関係の支出(9月9日理事会報告。詳細は学会から報告)

- ①2011年度からの支出累計(認定カウンセラー会よりの支出) 1,109,968円
- ②2011年度からの支出累計(対策本部からの支出) 1,944,078円

## 「石巻市現地支援・被災地視察に参加して」

認定カウンセラー 八木富貴子(静岡県)

8月9、10、11日の3日間、危機支援部会募集の石巻市仮設団地支援と被災地視察に行きまして。3.11後支援の道を探しましたが、今回危機支援部会のスタッフのご努力でその機会が頂けることに感謝すると共に、足を引っ張らないように心がけました。参加者は20名。それぞれの地方から(遠方では神戸・大阪)の現地集合です。メンバーは、以前から支援を続けている人、今回が初めての人、認定会の会員ではないが繋がりがあって参加したという人の構成でした。

9日は本部会が支援に入っている三カ所の仮設住宅の中で一番規模が大きいという大森第三団地でした。ささえあい拠点センターにて足湯、お茶会、心と体のコミュニケーションワーク、マッサージ、健康相談の活動が行われました。220枚のチラシ配りで宣伝活動から入ったのですが、留守のお宅が多く、宣伝が行き届かなかったことが残念でした。1時間のワークとしてセットされた「心と体のコミュニケーションワーク」には20名程の住民が参加し、リラックスムードが高まるに連れ、笑い声が聞かれるようになっていました。足湯に来られた方には、足や手をさすりながら自然な会話をする中で、胸の内を語ってくださるのを待ちました。表面的な会話で終始した人もありましたが、多くの人は大混乱期の感慨等を語ってくださいました。戦争を体験してきた人は、津波と戦争の両方の話で、その悲惨さを語ってくださいました。硬い表情の女性がいました。足湯をしているとき語った彼女の言葉が心に深く残りまし

た。「皆さんのようなボランティアの方達のことは有り難いと思うけど……。でもどうしても素直に心から有り難うと言えない。いつか自分がその立場に立ったら自分も人の役に立ちたいと思うけど……。今はやっぱり心から有り難うって思えない……。今はやってもらうことばかり……。津波が来る前はこんなじゃなくて……。何でもやってきたのに……。」支援する側とされる側の関係について、支援するということについて考えてしまいました。

10日は被災地視察が計画されていました。この視察は津波で亡くなった方々の鎮魂の意味を込めて行われました。地区は本部会が活動している河北地区の仮設住宅に入所している方々にゆかりのある長面・雄勝地区を中心とした所です。ガイド役は元石巻市立病院の看護師をされていた及川さんと佐藤さん。お二人とも被災者でありながら公務員として災害直後から市民の援助に当たり、復興に尽力してきた方達です。彼女達の「足の踏み場もない瓦礫の中を素足で歩いていた・・・」「移動手段は歩くことしかないんです・・・」「目を覆いたくなる光景の中を・・・」と語られる臨場感溢れる体験談に、同時にタイムスリップしたかのような錯覚に陥りました。ひとつ一つが胸を打つ内容で、大混乱に向き合ったからこそ伝えることができる貴重な話をたくさん伺いました。お二人の職場であった石巻市立病院の周辺もすべて津波で流され、住宅の基礎のコンクリート部分だけが残り、至る所雑草だらけという状態でした。近くにはまだ水が引かず池のようになっていた箇所もありました。日和山公園のある高台の人々とその直下の平地に住んでいた人々との180度の運命の分かれ道に、割り切れない思いでした。大川小学校は、ほとんどの児童と教員が尊い命を失ったと報道された学校です。近くに新北上川が蕩々と水をたたえて流れていました。辺りはここに町が存在していたとは思えない程何も無く、廃墟と化した校舎が痛々しい状態で残されているのみでした。校舎の鉄筋コンクリートの柱がへし折られている光景は、津波の威力の凄まじさを象徴しています。そこで起きた情景を想像しながら、深く手を合わせました。バスは長面地区へ。10月頃まで水に浸かっていた入ることもできなかったとのこと。及川さんは「ああ、随分水が引きましたね。」とその状態を評価していましたが、私の目には川の中州を運行していて所々に湿地帯がある自然の宝庫としか映りませんでした(ごめんなさい)。1年数ヶ月経った今この状態なのです。この地区の住民が帰ることのできる日はいつなのか、胸が苦しくなりました。雄勝地区は住民にとって唯一の病院をなくしました。犠牲になられた患者さん・ドクター・ナースに鎮魂の祈りを捧げ、及川さん達の説明を伺いました。知り合いの同業者をなくした無念さが伝わってきました。新聞で紹介された雄勝診療所と小倉医師への面会も彼女達の尽力で実現し、小倉医師のヒューマニズムに貫かれた行動を知りました。頭が下がる思いでした。

11日は追波川河川団地にて定例の足湯とお茶会の活動がありました。参加者は5名。私以外は継続的に支援に入っている方達です。河川団地は長面・雄勝地区の住民が多く、コミュニティ活動が進んでいる団地とのこと。行政との協働活動として足湯・お茶会が定例に行われている為、住民の方々の受け入れは友好的かつ協力的で、掛けてくださる言葉に信頼関係を感じました。足湯の活動で最愛の娘さんを津波で亡くしたおばあさんの話を聴かせていただきました。語っても語り尽くせない無念さにただ一緒にそこに居ることしかできませんでした。

今回の活動を通し、「支援する」とはどういうことなのか、誰のための支援になるのか、を冷静な目で見ていくことの大事さを強く感じました。カウンセリング学会の支援のアイデンティティと問われますが、お話を聴かせて頂ける関係になるまでの信頼関係樹立の活動は、顔なじみになることかもしれませんし、通い続けて「嬉しいな、楽しいな、楽になったよ」の声がいっぱい聞ける活動をやり続けることかもしれません。いろいろな時期にいろいろな支援があつて良いのかなと思いました。大事なことは押しつけや自己満足であつてはならないということでしょうか。今回お会いしたすべての方々に感謝して、拙文を閉じたいと思います。

# 2012年度 相互研究(研修)会報告(第1回～第3回)

会場：早稲田大学

## ◆第1回 5月20日(日) 参加246名

◇参加者のアンケートより(順不同)

[コミュニティカウニング・倫理教育部会]

〈テーマ:「ピアメディエーション」いじめ・暴力行為などの予防の可能性〉

- ・今は面倒なことが起こったら「関わらない」ことを教える親が実に多い。子ども自身が自分で考えて行動できなければ解決しないし問題解決型アプローチの大切さも頭では分かっているつもりでしたが、今日のお話でそういうシステムを学校の中に見える形にしていかなばという点に「それだ!」と膝を打ちたくになりました。ツイッターやSNSが当たり前の現代の中で調停の秘密保持の原則は、どこまで通用するのかな?との思いはありますが・・・もっときちんと学びたいです。
- ・メディエーターの必要性を学校という組織の中でどの位感じているのか・・・(自分の地域のことではしか具体的には分からないので)ファシリテーションの困難さ等、現場の先生方の声を伺ってみたいと思いました。
- ・ADRの基本形を学んだと思う。ピアメディエーションの重要性は理解できた。日本社会の中に具体的にどう根付かせていけばよいかまだイメージできずにいる。
- ・何度もおっしゃっていましたが、本来10時間かかる内容だそうで、基礎知識が全く無い状態だと「全体像がぼんやりわかる」くらいで終わりました。興味深い内容でしたので、少し勉強してまた参加したいです。

[危機支援部会]

〈テーマ:被災地巡回健康相談と今後の心のケア〉

- ・震災後1年以上たった今だから、うつになったり新たな症状が出たりの現実を改めて知ると共に、認定カウンセラーの方々の継続した支援の大切さを実感しました。よそ者だから話ができることもある、はりきっている人ほど実は問題を抱えている、というお話が印象的です。微力

ながら何かできることを考えていきます。

- ・現場の筆舌に尽くし難いご苦勞に頭が下がった。行政、国の対応、個々人の向き合い方等、様々考えさせられた。震災から1年以上経って益々大きくなる課題もあるように思う。大変重いが有意義な内容だった。お二人に感謝です。
- ・お二人の看護活動のすさまじさ、サポートに携わった人たちの現場での活動にただただ頭が下がります。これからも続く支援活動、どこかでお手伝いをと考えています。
- ・危機の中では人は様々な思いが渦巻くもの。カウンセラーとしてそういう人々の思いの邪魔をしないように、側に立ち続けるとはどういうことなのか・・・考えさせられました。お二人には心からお礼申しあげます。

[教育・スーパービジョン部会]

〈テーマ:産業カウンセリング学会におけるスーパーバイザー養成の実際を語る〉

- ・産業カウンセリング学会におけるスーパーバイザー養成についての説明を聞き、本学会での現状を率直に残念に思った。部会の内容をもう少し詳細に認定カウンセラー会・カウンセリング学会で共有化を図る必要があるのでは。SVの必要性を挙げているのに内容が発展している感じがしないのは残念です。
- ・産業カウンセリング学会のスーパーバイザー養成について知ることができたが、本学会でのスーパービジョン養成についても、早急に方向性を明確に指針を示してほしいと感じました。
- ・新しい養成プログラム等、現在の新しい情報を聞けてためになった。産業カウンセリング学会の「スーパーバイザー養成の考え方」は正しいと思いました。ぜひ本学会でも養成に本腰を入れて欲しいです。

[学校カウンセリング部会]

〈包括的スクールカウンセリングの理論と実践〉

- ・適応、学習、進路の3本の支援が大切だと気づ

かされました。

- ・アンガーマネジメントの新しい技術を多くの事例を検討しながら「見立て」と解決を早くすることを学び・・・子ども達の基本的スキルを身につけさせなければならぬことを感じました。また、講義をお願いします。
- ・盛り沢山でしたので、ついていくのが大変でした。具体的にどのような援助プランを組むかという点で新しい知見を得ることができました。
- ・スクールカウンセリングにおける「見立て」の難しさや大切さを実感しました。非常に興味深い内容でしたが、もう少しじっくりと取り組みたかったです。この講座の今後の継続的企画を希望します

#### [医療・看護・福祉カウンセリング部会]

〈テーマ：前半：石巻仮設住宅巡回看護活動の現状報告。後半：新型“うつ”について、傾向と対策パートⅡ〉

- ・報道されているのとは異なり、ナースとしてあの震災からのお二人らの活動の実際を聴き、何度も涙しながら“より添うこと”の本当の姿を学ばせていただきました。行政のあり方にも今更ながら憤りを感じました。私に何ができるかを深く考えさせられました。
- ・医療の視点から発する被災者の生きる困難さの叫びを代表して語られたようで感動した。後半の新型うつの事例検討も参考になった。
- ・支援とは？ ボランティアとは？ 看護とは？ 人間とは？ 幸福とは？ 根源的な問いを深く突きつけられた感じでした。(日頃は考えていないので) とても深い学びをしました。
- ・後半は時間がなくて残念でしたが、新型うつの事例検討は助かります。次回を楽しみにしています。

#### [キャリアカウンセリング部会]

〈テーマ：Career Development (キャリア開発・発達) の支援としてのキャリア教育をどうとらえるべきか〉

- ・一通り知識面を確認できましたし、皆さんの生きた話を聞くことができ刺激になりました。
- ・様々な立場の方のお話が聞けて、キャリア教育がどのようなものか分かりました。これからの進む方向も見えてきて、とてもよい学びになりました。

ました。

- ・キャリア教育はどの段階でも必要だと考えさせられました。「型にこだわり過ぎで実がない」ことが変わっていくとよいと思います。
- ・少人数でディスカッションできてよかったです。変化する内的キャリアの発達支援の重要性が再確認できた。

#### ◆第2回 7月8日(日) 参加者151名

##### ◇参加者のアンケートより(順不同)

#### [コミュニティカウンセリング・倫理教育部会]

〈テーマ：これからの支援教育ーパーソナルアプローチからユニバーサル教育へ〉

- ・肯定されているという会場の雰囲気の中で、楽しい気分で講義を拝聴できました。学校現場では会議という形で事例検討会や役割分担を行うことがなかなか難しい現実がありました。「立ち話」でもOKということでこれでよかったのだと安心しました。
- ・学校への支援で、学習や学校システムの支援の内容は聞く機会がなく、有意義でした。
- ・とてもわかりやすい内容でした。実際にチーム支援の大切さと難しさを感じていますが、教師間の信頼関係構築が重要なポイントになると感じました。
- ・2時間の枠で沢山の分野を学べ本当に充実しました。この夏、県の免許更新講習、特別支援を担当しますが、伝えたいことが整理されました。ありがとうございました。

#### [危機支援部会]

〈テーマ：自死遺族支援ー死別の悲しみと希望〉

- ・講師の自己開示から始まり、心に迫るものを感じました。喪失したものへのグリーフ対応をしっかりと学ぶ必要性を痛感しました。
- ・喪失体験者へのサポートの仕方や支援の仕方、心構えなど沢山の事例や体験に基づくお話を聞くことができ、切実感を持って学びました。
- ・実体験を通しての講義は奥深く、改めてグリーフケアの必要性を学ぶと共にセルフケアの大切さも感じました。石巻市の支援活動に参加しており、年月が解決するものではないことの言葉も重く受け止め、今後の活動をしていくつもりです。
- ・ご自身の体験に基づくお話にとっても感銘をうけ



た。カウンセリングの基本とされる「傾聴」「ありのままに」を改めて実感。体験に裏打ちされた言葉だったので強く強く伝わってきた。

### [教育・スーパービジョン部会]

- 〈テーマ：ブリーフカウンセリングの倫理技法〉
- ・今後のカウンセリングの傾向として、統合的カウンセリングの方向というお話は、現在のクライアントさんの状況からも納得でした。ブリーフカウンセリングの講義・事例についても非常によく理解できました。
  - ・ブリーフ、特に時間制限カウンセリングは教育モデルであり、CO・CL関係はそのまま教師・児童生徒関係に置き換えて考えることができる。普段の指導・相談活動を見直す良い機会となった。
  - ・最近のカウンセリング理論の動向について新しい知見を、先生の体験を踏まえて、特にブリーフカウンセリングについて詳細なお話をいただき勉強になった。事例の報告もよかった。
  - ・学校でカウンセリングを行っています。“目的をより明確にして始める”“時間を限っていくことを意識する”の2つを実践してみようと思います。

### [学校カウンセリング部会]

- 〈医師の立場からみた学校現場における思春期・青年期の臨床〉
- ・気分障害、統合失調症の理解が深まった。ただ、長いつきあいになるのでサポートが大変だと感じた。ここにも人間関係の大切さが見えた気がした。
  - ・高校の不登校クラスを担当していましたが、統合失調症についてもっと高校現場で学ぶ機会を増やす必要を感じました。学校はもっと柔軟に学ぶ努力をしないと。沢山の課題が見えてきました。
  - ・医師の立場からの話も、この時代大変必要だと感じました。35名の子どもがいれば2割程度の??が見当たるので、本当に見極めは難しいのですが、発達障害は、早期発見・早期支援・早期自覚の立場で見たいです。
  - ・なかなか専門的な話を聞く機会がなかったのでとても良い話でした。カウンセリングを進める時、病気を持っている場合もあるので、専門的

な知識の必要性を強く感じた。

### [医療・看護・福祉カウンセリング部会]

- 〈新型“うつ”について、傾向と対策〉
- ・新型うつへの対応は難しいと感じましたが、コラム法で状況が整理され焦点がはっきりしてくる過程が見えました。周囲の支援と本人の能力を育てるのが大切なのですね。
  - ・新型うつの事例を通して認知行動療法でのかわりを学びました。かわり困難な事例でした。個別性のかかわり方の重要性が理解できました。
  - ・新型うつについては、クライアント先である企業の最も大きな課題となっています。発症してからのサポートは難しいので、予防教育に力を入れていきたいと思います。
  - ・“新型うつ”の問題の他にも色々な問題を持つ事例だったため、よく分からないと思ったが、“新型うつ”の予後がそれぞれに違うという説明があり、いくつもの事例に当たらないと理解ができないことが分かった。

### [キャリアカウンセリング部会]

- 〈小学校・中学校におけるキャリア教育〉
- ・具体的な内容をたくさん話し合えてよかったです。
  - ・自分自身のキャリア教育も考えるきっかけになったなと思います。
  - ・人数が少なかったからこそ、色々な立場の皆さんのお話を聞いてよかったです。

## ◆第3回 9月9日(日) 参加118名

### ◇参加者のアンケートより(順不同)

#### [コミュニティカウンセリング・倫理教育部会]

- 〈テーマ:組織や職場の人間関係が構成員(個人)に及ぼす影響〉
- ・日本人の持つ魅力や特性を再度見直しました。どちらかというキャリア領域でしたが、学校領域でも十分応用できる理論が多く、人を生かすためのメカニズムが興味深かったです。
  - ・幅広いコミュニティの問題を取り上げ、過去40年～現在のあらゆる社会情勢、状況に応じた歴史的背景とコミュニティのかかわりを講義され、大変興味深く、人間の基本的かかわりはコミュニケーションを持つことだと改めて認識しました。

- ・コミュニケーションの概念の捉え方について改めて視点を変えたところで意味の深いものであることが分かり、刺激を受けました。特に、集団討議を通して自己・他者の成長につながる有効性についてです。

#### [危機文援部会]

- 〈テーマ：支援事例から考える高齢者虐待〉
- ・教育関係の仕事をしています、丁度、ソーシャルワーカーや社会福祉士の必要性を感じているところでした。専門職の方の現場の話聞いてよかったです。高齢者と子ども達も関係する部分があることがよく現解できた。
- ・事例を踏まえての丁寧な説明で、現状をよく理解できた。組織をどう機能させるかが重要なポイントだと感じた。カウンセラーとしてどのように参加できるか考えていきたい。
- ・高齢者虐待の実態を聞き、その中で支援の決定権は本人の意思決定が優先されること、「NO」という選択をどう支援に結びつけていくのか、とても難しくこれからの課題だと思った。

#### [教育・スーパービジョン部会]

- 〈テーマ：教育分野のスーパービジョン〉
- ・初めてこの部会に出席し、バイザー・バイジー・観察者の全てを体験しました。スーパーバイズでなくカウンセリングになってしまいますが、暖かな話しやすい雰囲気の中、具体的なヒントもいただけてよかったです。
- ・とても充実した研修だった。カウンセリング演習はよくあるが、積極的に情報収集し短時間で見立てる研修はなかった。認定カウンセラー会にふさわしい内容だった。
- ・スーパーバイジーになって普段自分が行っていることをバイザー側から整理してもらい、ポジティブな評価を受け、更に今後の対応方法も示してもらい有り難かった。バイザーになると対応しているバイジーの苦勞・クライアントの大変さが分かり労うことが精一杯だったが、一歩引いてみるとよく見えた。

#### [学校カウンセリング部会]

- 〈テーマ：通常学級における特別支援教育のあり方〉
- ・発達障害の見立てと支援方法について具体的実

践的な助言をいただきました。支援とは何かについて改めて考え直す機会となりました。

- ・大変具体的で明日からすぐ取り入れられそうなお話でした。特別支援教育が安易な取り出し教育にならないように、状況把握でなく客観的な言葉で実態を共有できることが大切だと思いました。
- ・状況把握から実態把握し戦略を考えなければと思いました。特別支援コーディネーターをやっているの、担任とコーディネーターをつなぐ視点が得られました。

#### [医療・看護・福祉カウンセリング部会]

- 〈テーマ：発達障害者の身体問題が、どのような不適応を起こしているか、調査を通して〉
- ・発達障害の詳しい内容を細かく講義され、障害を持つ人たちの困難や、それを個人に応じて支援することの大切さを学び、早期に支援することで軽度にもまた通常に生活することも現解できた。良いところを伸ばし、どのように行動したらいいかを教える教育をしていくこと。
- ・発達障害の中でも身体の各器官の感覚についてはこれほど詳しく学ぶ機会がなかったので、しっかり理解するの必要を感じた。詳しい資料に感謝です。
- ・現場感覚がリアルに伝わってきた内容でした。発達障害、彼らの求めているものはささやかだから、だから学校はもっと謙虚になってユニバーサルを進めて欲しいが印象的でした。

#### [キャリアカウンセリング部会]

- 〈テーマ：高等学校におけるキャリア教育〉
- ・学校現場で苦慮しているキャリア意識の低い生徒・保護者に対して良いモデルを示すためにどう支援したらいいかの展望が多少見えた。自分自身を知る、自分に○をつけられる資質を身につけさせることが大切かと思いました。
- ・教育と訓練の違い、頭の整理ができました。自分を知ることの大切さも再認識しました。大人が出来ていないことを子どもにせよというのは難しいですね。
- ・現実的な話や多方面に渡っての情報や意見が聞けて充実していました。次回が楽しみです。

## 北から南から

### いま、私が思っていること

認定カウンセラー 伊藤 富宏 (大阪府)

○私は、5年前に中学校勤務を終え、定年退職しました。在職中から、カウンセリングが自分の性格に適していると感じられ、勉強を始めました。一番最初に取得した資格が日本カウンセリング学会の認定カウンセラーでしたが、取得のための研修会は、大阪ではほとんど行われていませんでした（今もそうですが）。そのため、遠方で行われる研修会へ出かけて行きました。今から考えると、それも数少ない楽しい旅行ともなり、家族への後ろめたさなく各地をまわれる結果になり、大変良かったと思っています。

定年退職して、社会から少し離れることの寂しさを覚えていましたので、そのあと、教育専門員やスクールサポーターをしておりますが、在職中に学んだカウンセリングや学校心理学は、特別支援教育や不登校支援に大いに役立っています。

私は定年退職したとき、これからも積極的に社会参加していく為に、三つのことをやっていきたいと考えました。

一つ目は、四国遍路です。私は無宗教ですが、心身の修行と、空海のめざした“宇宙の普遍的原理”の一端にでも触れられればと、大それたことを思ったのです。

しかし、これはなかなか実現しそうにありません。計画さえも進んでいません。

二つ目は、在職中から続けている人権関係の研究のまとめです。

そして、三つ目が、今までずっと学んできたカウンセリングを生かして、学校以外の社会でもお役に立つなら立てていきたいということでした。

そういう中で、昨年3月11日に東日本大震災が起きました。認定カウンセラー会危機支援部会では、その前から危機支援研修会が積極的に行われていましたが、日程の都合もあり、私はそれに参加できておりませんでした。

しかし、大震災後の危機支援カウンセラー養成研修会には参加し、危機支援チームに登録させていただきました。登録しましたが、チームが試行錯誤し活動場所を切り開かれていく中、公私の都合にかまけて、実際の活動にはなかなか参加することができずにいました。しかし、この8月に実施された「東日本大震災夏季支援活動及び視察」にはなんとか参加することができました。

その中で、被災者のかたと被災地の本当の姿に接することができ、もちろん被災者の方の悲しみと憤りのその一部にすぎないでしょうが、理解し共感することもでき大きな感動を得ることができました。被災者の方や被災地について、少しでも正確に理解するには、被災地に実際触れないと何も解らないといわれます。そういったことから、今回この活動に参加できたことは大変良かったと思うとともに、これからも継続的に活動に加わらせていただきたいと決意を新たにできました。

○もうひとつは、学校現場のスクールカウンセリングについて、日頃感じていることです。私も、退職後、スクールカウンセラーに応募して、こどもたちや保護者や教師の役にたつことができれば本当にいいのにな、といつも考えています。生徒指導主事や学年主任・担任としての経験に加え、教育心理

学や学校心理学、カウンセラーとしての専門知識やスキルを生かし、個別相談だけではなく教育全般のアドバイスができるのに、と思うのですが、実際は、資格問題で受験すらできません。いま、スクールカウンセリング推進協議会がたちあげられ、『ガイダンスカウンセラー』資格ができましたが、できるだけ早くスクールカウンセラーへの道が開かれるよう切望します。

昨年、文部科学省から、各教育カウンセリング団体あてに、東北各県へのスクールカウンセラー派遣要員可否調査があり、私も何回も回答しましたが、その後なしのつぶてです。私自身はもう無理かもしれませんが、教育と心理の双方の専門家であり、スクールカウンセラーとして最もふさわしい『ガイダンスカウンセラー』がスクールカウンセラーへ採用されることを切に願います。

○もうひとつ、日頃感じていることがあります。それは、認定カウンセラーが、東京周辺の都県に集中しており、地方に非常に少ないことです。大阪も大都市でありながら、意外に少ないのです。したがって、定例の相互研究会や研修会も東京や関東周辺で多く、地方の者にとっては大変参加しにくい状況です（経費や日程的にも）。

しかし、これも仕方がないことです。地方の認定カウンセラーがもっと増加し、地方での研究・研修会が増えれば、と願っております。

## INFORMATION

◇認定カウンセラー会のホームページが開設されました。ご利用ください。

◇日本カウンセリング学会第45回大会（千葉県柏市：麗澤大学）

- ・10月26日（金）研修会 当日の参加はできません
- ・10月27日（土）・28日（日）大会当日の参加は可能です

◇2011年度 認定カウンセラー資格取得者（2012.4.1認定分）

赤羽麻衣子 竹内 一代 富本 祐加 原 一宏 村尾 由子

訂正：ニューズレター第12号 最終ページ 2011年度認定カウンセラー資格取得者

（誤）菊池 敦子 （正）菊地敦子 と訂正します。

◇2012年度「認定カウンセラー資格認定試験（試験方式）」、10月6日・7日に実施。

◇2012年度「ガイダンスカウンセラー資格認定試験」、出願期限は過ぎました。問合せ・資料請求先は、スクールカウンセリング推進協議会へ。FAX(03-3941-8116)か、E-mail(info@jgca.info)で。

### 【編集後記】

- ・この秋も、各種大会・研究会等が目白押しで充電の季節です。わが認定カウンセラー会の相互研究（研修）会の関西地区（西日本）開催の聲が高まる中、今年度の公開研修会がそのステップになることを期待します。
- ・仙台平野は黄金色一色、稲刈りが始まりました。ついこの間、氷の張った水田の中を仮設住宅に向かった感じがします。時間は平等に流れても、この格差はどうしたことか。住民のささやかな自立への歩みに励まされながら、認定会ももう一步踏み出しましょう。

（広報委員 阿部）